

安藤科研打ち合わせ 181202@東南亭

参加者：安藤、林、矢嶋、大西、南出、野瀬、浅田、赤松

林 松本淳先生の MAHASRI プロジェクト（2016 年終了）の後継をどうするか。
WMO の WCRP の GEWEX の一環。1995 年に GAME 開始してから継続。
寺尾先生・鼎先生が次期のリーダー。来年度から始動予定。

11 月中旬に首都大学でデータレスキューの国際会議を開催した。
福島さんのアッサム茶園データレスキュープロジェクト（住友財団補助金）。
IITG の Sharma 氏（土木）がすでに 110 カ所の茶園気象観測データをデジタル化。

林先生 12/17 からインド出張。茶業研究所あるジョルハットにも立ち寄る。
Pradip Baruah 氏（トクライ茶業研究所）とも会う予定。

浅田 9 月末の日本南アジア学会で発表した内容。
ベンガリ、ミヤ（バングラデシ）、アッサミーズムスリムのちがい明確に。
アッサムを知るには、ベンガル+北東 7 州を広範囲に見ないといけない。

3 月の村落ワークショップは、ゴウハティ大学との共催を前面に出す。
ニッタナンダにアドバイスを求める。
カーストや民族は繊細な問題なのでなるべく言わないようにする。
村人が何を問題に感じているか。就職の問題、行政とのつながりなど。
昔と今の農業や暮らしの変化も聞く。

大西 ヤンゴン大学の技官の出身村で調査中。
乾季に地面を掘ってレンガ造りをして現金収入源にする。
ドバイ、シンガポール、マレーシアなど出稼ぎに行く。
三井物産環境基金と科研費に申請中。カワウソとマングローブ林の保全。

南出 ジャマルプール県の調査村で 2004、2009、2014 年にデータを取ってある。
村内の 1 集落 61 世帯で調査完了。平均所有面積 325 decimal（3 エーカー？）。
Share crop（ボルガ）はほとんどない。種子・肥料代を全部自分で負担しないと。
出稼ぎ者。県内 10 件、県外 7 件、海外 7 件。
家屋の変化。土→トタン→レンガ。ガスシリンダーの普及（2014 年～）。
稲作が主流であることは変化なし。農業+αとして養鶏、養魚や樹木をする。

BRAC に農地を貸して中国輸出用稲を栽培する世帯が出ている。
 バングラデシュの Hybrid 米は BRAC が導入した。
 地方政府を介さずに直接村にやってくる。
 農繁期には Rangpur、Dinajpur から農業労働者が働きに来る。
出稼ぎ増加による農業の担い手の変化あり。2 年後に帰ってきて農業に戻る人も。
原忠彦先生民族誌 50 年を記念して、バングラ国内数カ所で農村の変化を調べる予定。

野瀬 ラダックの村落における過疎・高齢化。2009 年からラダックで調査始めた。
過疎離農の問題は、1982 年の世界高齢者問題会議から始まった。
インドでも 1980 年代から高齢化が指摘されていた。
ドムカル村集落 3 つ。上 80 軒、中 50 軒、下 70 軒。
保健センターに住民リストがある。登録人数は変わらないが在村人口は減っている。
 高齢者の年齢は干支で推測する。仕事と居住場所も調べた。
3 年前に水力発電所が開設されて 24 時間電気が来るようになった。
 レーまで 6 時間かかったのが道路整備されて今では 2 時間強で行けるようになった。
高齢者率は少しずつ上がっている。子供の数が減っている。
 移住先の街で生まれた子供も村で住民登録する。選挙、相続のため。
かつては一妻多夫制があった。
若い人が結婚しなくなっている。若者の流出。帰ってくる人もいる。
農地に果樹を植えている。家畜の数は減っている。

ラダックの観光地化。映画『3 idiots』の舞台になったことで国内観光客押し寄せる。
インド人の大学卒業者がガイドに就く。結婚はしない。

安藤 村に帰れるか問題
 定年後は年金あるので経済条件は関係ない。
 村内に社会的つながりが残っているかどうか。
 まったくコミュニティがない地域（石垣島）は I ターンで新規移住者が入りやすい
 が、中途半端に組織が残っている地域（沖縄本土）は入りづらい。

赤松 タシガン県ボンメ地区。
 水田（労働力不足）は放棄されず、畑地（獣害のせい）は放棄されている。
 水田は森から比較的離れている。米の主食化が進む。
 現金で支払うティカ制度が 10 年前から入っている。アッサム由来の制度。
 昔はボンケ（bongke）制度で収穫物を半々にした。ベンガルのバンガ制度。
 ブータンでは子供 2 人までという家族計画を進めていた。

予想外に少子化が進みすぎて、見直しの動きもある。
移住先ティンブー、パロ、プンツォリン。南部の国境地帯は治安が悪い。
国境沿いの開発はインドが嫌がる。
東ブータンは地形的に平坦な土地少なく家を建てられない。
耕作放棄地のデータも 2015 年からセンサスに掲載されるようになった。
政府は危機意識をもっている。補助などしている。
インドへの食料依存率が上がっている。
土地（水田）を 3 年間放棄すると政府が没収する。

安藤 労働力不足というのは、家族労働では起こらない。
問題は農業収入が少ないこと。
バングラやインドでは、日雇労働が農業を支えていた。
その労働力が他の産業にとられた。
家族労働ではせいぜい 3 ビガ（1 エーカー）しか経営できない。直播で。

矢嶋 2009 年、2013 年にタチャンパ村で人口調査したので、フォローアップしたい。
中国の影響で土地を移動させられた世帯がある。
北のポンサリでダム工事が終わったので人の移動があるのでは。
古くからある村の人口変化、行政による山から低地への定住政策。

市川（安藤）

2018 年 3 月の熱帯農業学会で東南アジアの過疎問題の特集予定。
サラワク、タイ、韓国、ミャンマー、ブータンの事例を発表予定。

安藤 ドッキンチャムリア村の事例。内田さんがデータ分析中。
3 年ぶりに訪問。舗装道路、エンジンバン、町と村に家を 2 軒建てる世帯出現。
タンガイルの町が近くなったことから野菜販売など活路があるかも。
バングラデシュ農業大学普及センター(BAUEC)との連携。
地元の大学が過疎離農問題にどう関わっていくかが重要。
各県に 1 つずつ国立大学をつくる構想が進んでいる。
大学の卒業生の就職先。
トヨタ財団のプログラム採択。
ブータン、ミャンマー、日本を対象とする。

コミラの BARD で泊ったときに秘密警察が来てパスポート提示させられた。
外国人が農村部で宿泊する場合は受入れ団体が警察と DC オフィスに計画書提出。

宿泊する場合はアンサー（武装警察）2人をつける必要。
政府が口実を見つけて気に食わない NGO を潰したい。
一般人の中にも政府の秘密党员が混ざっている。会話、電話も盗聴されている。
Village politics の問題。アワミリーグ対 BNP。村内で敵対する住民を攻撃する。

ミャンマーの opo 村。岡田君が調査。
5年ほど前から 180 世帯中 40 世帯はヤンゴンに出ている。
イェジン農業大学にインドのお金で普及センターがつくられている。

余剰のはけ口理論（藤田幸一先生が言われる）

1970 年代に H・ミントが提唱。
潜在的な生産市場で輸出先がととのっていない。需要さえあれば生産量上がる。
ミャンマーのケツルアズキ、緑豆がこれに当てはまるケースという。
技術的な側面が欠けている。農民による技術革新が起きたはず。反証したい。

* 科研の最終年度（2020 年度）は予算を出版資金に回す。

センサスデータを分析して、国内で自分の調査地を位置づける。

＝いずれの地域でも内容を統一する。

人口増加率。地域差など。

populationpyramid.net

Internal Migration in Bangladesh (UNDP の報告書)

バングラデシュは都市部だけでなく地方部でも人口増えている。

単に各地の村の状況を説明するだけでなく、問題の解決策も考える。

（文責：浅田）